

はじめに

平田 光司 葉山高等研究センター

表記研究会が平成 17 年 3 月 2 日から 3 日、総研大葉山キャンパスで開催されました。

(1) 研究会の趣旨

大学共同利用研究機関は大学と研究所の中間的な存在として、世界的に見てもユニークな組織である。

1971 年に発足した文部省高エネルギー物理学研究所を第 1 号に、19 の機関が誕生し、それぞれ、日本の基礎学術の中で重要な役割を果たしてきた。2004 年度には 4 つの共同利用機関法人に改組され、新たな局面を迎えている。

大学共同利用機関の果たしてきた役割を学問の内部史としてのみならず、また個々の大学共同利用機関の歴史としてのみではなく、大学共同利用機関という制度を全体として歴史的、社会的な観点から理解することは、将来の学術の発展のためにも必要な作業である。

大学共同利用機関の歴史的社会的研究を行うための基礎資料としては、まず記録文書が欠かせない。しかし、他にも、それらの創立に関わった人たちへのインタビュー、現在の大学共同利用機関における参与観察など、多様な手段も利用可能であろう。

総合研究大学院大学（総研大と略す）は、大学共同利用研究機関に基礎を置く教育機関として、この問題と直接・間接に関わっている。葉山高等

研究センターでは、「大学共同利用機関の歴史に関するアーカイブズ」をプロジェクトとして行い、各大学共同利用機関の史料を把握、整理し、統一したアーカイブズとして構築する計画である。この研究会は、本プロジェクト遂行のための多様な手段、方法を検討し、具体的な行動目標を設定するためのものである。

(2) プログラム

■3月2日(水)午後

菅原寛孝「はじめに」

・史料入門

安藤正人（日本文学研究専攻・国文学研究資料館）「アーカイブズ学入門」

喜多千草（関西大学）「オーラルヒストリー入門」

Sharon Traweek (UCLA) 「Archives, Oral history, and Participatory Observation」

・共同利用研の歴史1

西村 純（宇宙科学研名誉教授）「宇宙研の歴史」

横山利彦（構造分子科学専攻・分子科学研究所）「分子研の歴史」

中井浩二（東京理科大学）「共同利用研と学術会議」

・情報交換会（19時～）

■3月3日(木)午前9時～

・アーカイブズ

青木睦（国文学研究資料館）「アーカイブズ研修プログラムの紹介」

西山伸（京都大学）「京大大学文書館の紹介」

松岡啓介（核融合科学専攻、核融合科学研究所）「NIFS アーカイブ室の報告」

木村一枝（核融合アーカイブ室）「核融合研究のアーカイブズ---その成立までの経緯」

高岩義信（素粒子・原子核専攻、高エネルギー加速器研究機構）「KEK史料室の報告」

・共同利用研の歴史 2

舘野義男（遺伝学専攻、国立遺伝学研究所）「遺伝研の歴史」

柿木隆介（生理学専攻、生理学研究所）/山岸俊一（本学名誉教授）「生理研の歴史」

・全体討論「歴史資料を収集する上での提言」

平田光司（葉山高等研究センター）「提案」

(3) 参加者名簿（全 38 名）

横山利彦	構造分子科学専攻 分子科学研究所
高岩義信	素粒子原子核専攻 KEK
柿木隆介	生理科学専攻 生理学研究所
山岸俊一	生理学研究所名誉教授
舘野義男	遺伝学専攻 国立遺伝学研究所
大林治夫	核融合科学研究所名誉教授
藤田順治	核融合科学研究所名誉教授
難波忠清	核融合科学研究所
松岡啓介	核融合科学専攻 核融合科学研究所
木村一枝	核融合科学研究所核融合アーカイブ室
喜多千草	関西大学
中井浩二	東京理科大 KEK 名誉教授
磯部琇三	NPO 法人日本スペースガード協会
西村純	宇宙科学研究所名誉教授
西山伸	京都大学大学文書館
三浦靖子	KEK 史料室

森本祥子	国立国語研究所
近藤一郎	東京大学名誉教授
田島俊之	北海道大学大学院理学研究科物理学専攻 博士課程
小沼通二	慶應義塾大学名誉教授
鈴木久仁子	ナカシャクリエイテブ株式会社 技術課
井口春和	核融合科学専攻 核融合科学研究所
古河崇	国立情報学研究所
青木睦	国文学研究資料館
安藤正人	日本文学研究専攻 国文学研究資料館
横山悦生	名古屋大学大学院教育発達科学研究科
Sharon Traweek	UCLA 葉山高等研究センター
門脇徹人	東京理科大学総合研究所 赤外自由電子レーザー研究センター
定松淳	東京大学社会学研究室 博士課程
鈴木朋子	跡見学園女子大学短期大学部
田島知宏	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 博士前期課程
植松秀穂	日本大学理工学部
西田篤弘	総研大・理事
菅原寛孝	総研大・理事、葉山高等研究センター長
平田光司	総研大・副学長、葉山高等研究センター
横山広美	総研大・葉山高等研究センター
加藤直子	全学事業推進室
新田伸也	葉山高等研究センター

(4) 成果

大学共同利用機関の歴史という視点の研究会は、日本では初めてであろう。ということは、世界でも初めての研究会であった。歴史研究という観点からは、これから本格的な研究を始めるための出発点になるべきもので

あった。

前回高エネルギー加速器研究機構 (KEK) で行われた研究会では基礎物理学研究所、乗鞍宇宙線観測所、原子核研究所、プラズマ研究所、阪大・核物理センターおよび KEK の歴史が中心であり、物理学における巨大科学の成立が興味の中心であった。今回は、加えて、分子研、宇宙研、遺伝研、生理研の歴史を概括していただいたが、それぞれの固有の事情、研究者集団の状況などには大きな違いがあるようだ。

しかし、これらの研究所がほぼ同じ時期に設置され充実してきた背景には、日本の基礎科学としての共通ファクターもあるだろう。学術会議の果たしてきた役割とその変遷も重要なポイントとなるだろう。共同利用機関の共通項の1つとしての総研大の歴史も無視できない。共同利用機関を軸に史料の充実と連携を図り、日本の基礎科学が社会の中で果たしてきた役割を浮き彫りにする作業がリアルに見えてきた、というのが成果ではないかと思う。